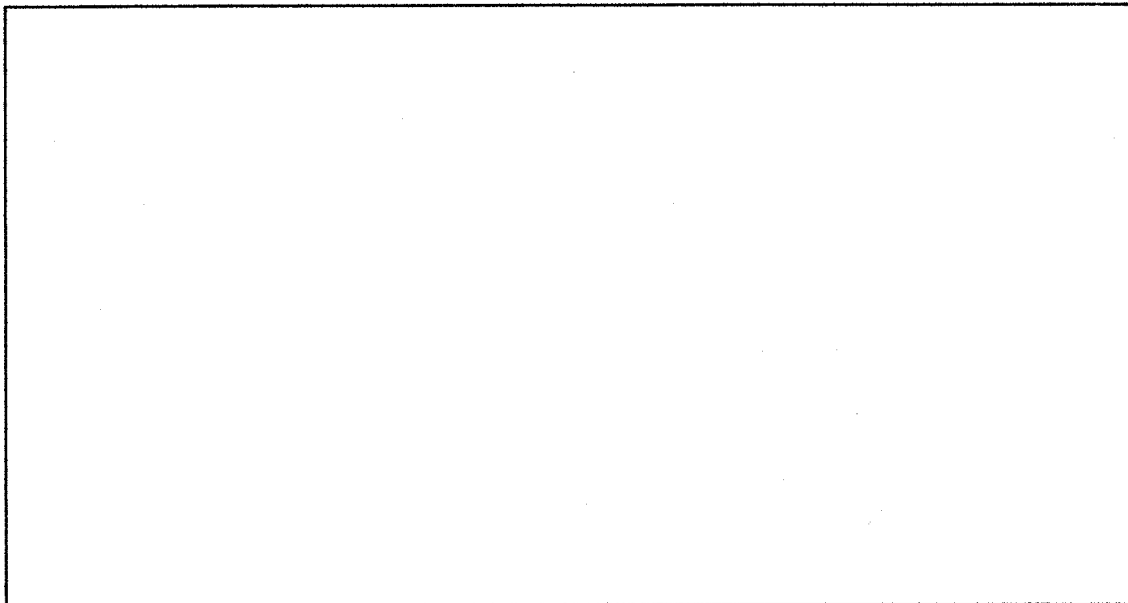


### タスク13 教室でのインターアクション

今日は、教える内容ではなく、環境やリソースとしての教師に着目して考えて見ましょう。これらは、日本語教育の現場だけでなく、様々な教育現場にあてはめて考えることもできると思います。まず、「教室」という環境について改めて考えてみましょう。教室環境は学びの内容や活動のやりかたにも大きな影響を及ぼすものです。いかにその「学びの場」をコーディネートするかということも重要です。当たり前の教室を「創造的で活動的な学びの空間」とするためのアイデアを考えましょう。

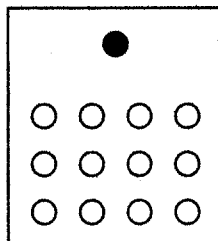
**練習1： <教室環境>あなたの理想とする教室空間を図や絵で描いてみてください。**教室はあなたが外国語を教える、あるいは学ぶとしたらどのような環境が理想的かということを考えてみてください。ご自分が学校の先生になるという方は、学校の教室環境や、外国人児童のいる教室などといった設定で考えてくださってもかまいません。



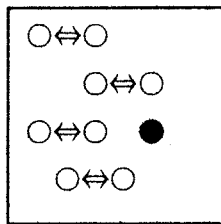
**練習2：<点から線へ>学習形態と教師の位置と動きについて考えてみましょう。**

日本の学校の代表的な学生と教師の位置は以下のような形ですね。(黒丸：教師)

活動形態1：教師単独発話・一斉型



日本語教育でも類似した形で、教師→学生というふうに一方的になにかを話す場面はあります。大人数のクラスで出席をとったり、予定やシラバスを説明したりするときなどです。しかし、その時間はあまり長くありません。個人的に私は以下の形をよく用います。



**活動形態2: 学習者間発話・ペア型**

このとき、教師ははじめの指示をした後、各ペアの活動の様子をモニターします。うまくいっていないペアを助け、質問に答えたり、誤りを修正したりします。

さて、みなさんはどれくらいの活動のバリエーションを考え付くでしょうか？それはどのような活動のときに使える形でしょうか？これから配る用紙にできるだけたくさんの活動形態を考えて図式化してください。2人～3人のグループでやるといろいろアイデアがでると思います。

**練習3: <フィードバック>**もうすこしミクロな部分も見てください。教師主導の形態だけでなく、ペアワークやグループワークなどの活動の際にも、明らかな誤用が見られるときがあり、適切に修正をすることが必要な場合があります。次の二つは「A ペアワーク(ロールプレイング)」のときに見られる誤用例、「B 教師とのやりとり」の中で現れた誤用例です。どちらか一つを選び、あなたが教師だったらどのように修正するか(あるいはしないか)を考えて、学習者に語りかけるように直してみてください。<の後に、教師の言葉を書き込んでください。

**タイプ A (AB は学習者)**

A: あ、すみません、わたしはあなたに相談します。わたしは、会社、、、貿易会社でつとめています。仕事がとても忙しい、仕事がいそがしいすぎます。休みは1日だけです。土曜日働きます。給料、、安いですから。毎日とても疲れます。どうすればいいですか？

B: そうですか。ん、、、すこし、すこしきゅうけいしたらどうですか？

<

**Bタイプ (Tは教師)**

T: チンさんが日本語を勉強している一番の目的はなんですか？

S: そうですね、、、今韓国の会社で勤めておりますけれども、

T: ああ、韓国の会社に勤めておられるんですね。どんな会社ですか？

S: 貿易の会社に勤めております。それでこれから2年日本にたいじゃいするつもりです。それで、日本の、いろいろ経済とか日本に対して勉強したいので、、、

<

## ワンポイントメモ

### \* 誤用修正の方法 \*

一般的に誤用の修正の仕方には以下のような方法があるといわれています。

#### A 明示的フィードバック

会話の流れを一時止めて誤りを指摘して正しい形や発音を示す。

#### B 暗示的フィードバック

会話の流れに沿って、正しい形や発音を教師が繰り返して発話することによって示す。

#### C 確認チェック

「～ですね？」のようにいて学習者の発言を確認する。暗示的フィードバックの一つとも考えられる。

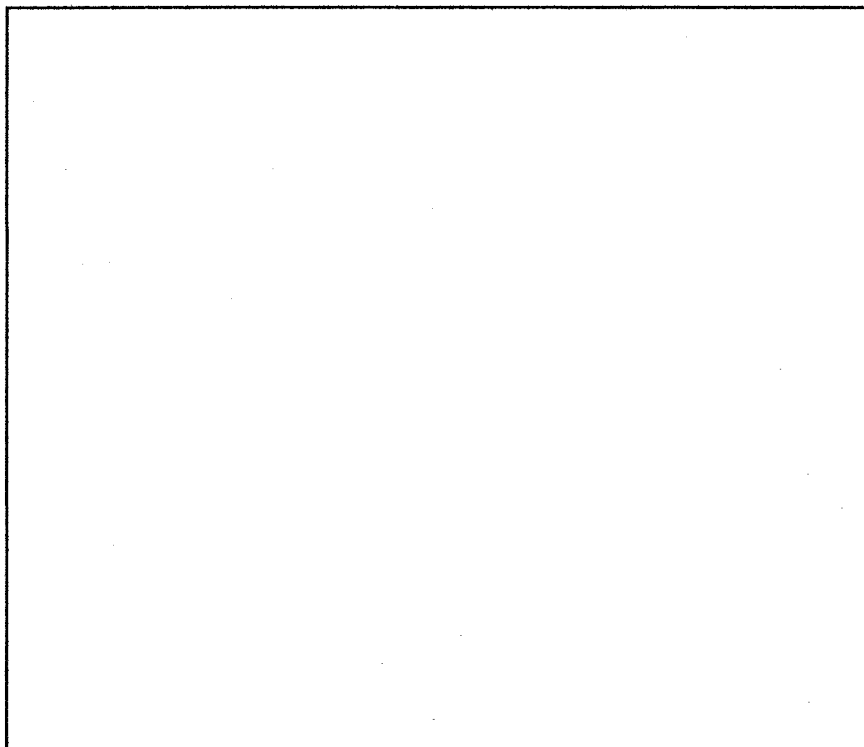
#### D 明確化要求

「もう一度いってください。」「～って何ですか？」のようにたずね、不明な部分の情報を補うことができる。

#### E 非理解を示すフィードバック

表情や、「え？」といった聞き返しでわからないことを示す。

活動形態 : . 型



活動形態 : . 型

